

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

|                                | 項目数       |
|--------------------------------|-----------|
| 理念に基づく運営                       | 11        |
| 1. 理念の共有                       | 2         |
| 2. 地域との支えあい                    | 1         |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用          | 3         |
| 4. 理念を実践するための体制                | 3         |
| 5. 人材の育成と支援                    | 2         |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援              | 2         |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応      | 1         |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援      | 1         |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント       | 6         |
| 1. 一人ひとりの把握                    | 1         |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2         |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援              | 1         |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働    | 2         |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援          | 11        |
| 1. その人らしい暮らしの支援                | 9         |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり        | 2         |
| <b>合計</b>                      | <b>30</b> |

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 事業所番号 | 2374800270                   |
| 法人名   | 医療法人 南信会                     |
| 事業所名  | グループホーム スマイルおおくて             |
| 訪問調査日 | 平成 19 年 9 月 6 日              |
| 評価確定日 | 平成 19 年 10 月 18 日            |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人<br>中部社会福祉第三者評価センター |

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

|               |                                   |       |             |
|---------------|-----------------------------------|-------|-------------|
| 事業所番号         | 2374800270                        |       |             |
| 法人名           | 医療法人 南信会                          |       |             |
| 事業所名          | グループホーム スマイルおおくて                  |       |             |
| 所在地<br>(電話番号) | 豊明市大久伝町南58番地<br>(電話) 0562-93-5971 |       |             |
| 評価機関名         | 特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター         |       |             |
| 所在地           | 名古屋市昭和区鶴舞3丁目8番10号                 |       |             |
| 訪問調査日         | 平成19年9月6日                         | 評価確定日 | 平成19年10月18日 |

## 【情報提供票より】(平成19年8月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |                   |                             |     |
|-------|-------------------|-----------------------------|-----|
| 開設年月日 | 平成 14 年 11 月 15 日 |                             |     |
| ユニット数 | 1 ユニット            | 利用定員数計                      | 9 人 |
| 職員数   | 10 人              | 常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.4 人 |     |

### (2) 建物概要

|      |        |     |       |
|------|--------|-----|-------|
| 建物構造 | 木造 造り  |     |       |
|      | 1 階建ての | 階 ~ | 1 階部分 |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                    |                |          |
|---------------------|--------------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額)            | 60,000 円           | その他の経費(月額)     | 18,000 円 |
| 敷金                  | 有( ) 円 (無)         |                |          |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | (有) 500,000 円<br>無 | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / (無)  |
| 食材料費                | 朝食                 | 380 円          | 昼食 450 円 |
|                     | 夕食                 | 620 円          | おやつ 50 円 |
|                     | または1日当たり 円         |                |          |

### (4) 利用者の概要(8月15日現在)

|       |           |      |      |    |      |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名       | 男性   | 0 名  | 女性 | 9 名  |
| 要介護1  | 0 名       | 要介護2 | 4 名  |    |      |
| 要介護3  | 4 名       | 要介護4 | 1 名  |    |      |
| 要介護5  | 0 名       | 要支援2 | 0 名  |    |      |
| 年齢    | 平均 83.4 歳 | 最低   | 73 歳 | 最高 | 91 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |             |
|---------|-------------|
| 協力医療機関名 | 大久伝内科、八ツ田歯科 |
|---------|-------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りを田園地帯が囲む閑静な住宅地の一角に立地したホームであり、開設から既に5年目を迎えている。管理者はホームのあるべき姿として、「利用者、家族、職員、地域の幸福を願うグループホーム」の実現を目指している。この管理者の思いを職員も十分に理解しており、それに基づいた日々のケアに対しては、家族の共感や信頼も得ている。このホームに係る行政(市の職員)、運営推進会議のメンバー、医療連携の提携医や訪問マッサージ師、定期的に訪問するボランティアグループ等々、これら善意の人たちの支援を受けて、ホームは地域の一人としての居場所を確保している。これからは、地域への貢献や地域での役割をも視野に入れて活動を展開されれば、ホームの「基本理念」や管理者の「思い」の実現も遠いものとは思われない。

## 【重点項目への取り組み状況】

|      |  |
|------|--|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での要改善指摘は3件であったが、全て改善への取り組みが行われていた。特に、利用者の「居場所の確保」に関しては、広いダイニングルームの一角を書架で区切ってソファを配し、異質な空間を作り出している。今回の訪問時でも、食事を終えた利用者がソファに座して一人もの思いに浸っていた。</p>  |
|      | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を実施する前に、管理者は職員に対して外部評価や自己評価についての詳細な説明を行っている。そのうえで、自己評価表を一定期間公開して、誰でも自由に意見や考えを記述できるように配慮している。これによって、職員に多くの気付きが生まれている。</p>   |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>昨年の秋までは順調に回を重ねていた運営推進会議であるが、主導的なメンバーの体調の問題から休会が続いている。地域への密着性が高いホームではあるが、さらに地域との連携を深めるための方策が、毎回の会議で討議されていただけに残念である。約1年ぶりとなる会議が開催予定とのことであり、今年こそ外部評価の結果の検討を含めて、活発な意見交換が期待されることである。</p> |
| 重点項目 | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族からの意見や要望には素早く対応しようとの思いが感じ取れる。一時帰宅(日帰り)される利用者の服装が問題(式礼服の着用が必要)となったことがあったが、家族からの要望を素早くキャッチして即座に対応したことで難を逃れている。家族アンケートにも、苦情につながるような意見や要望は全くない。</p>                                       |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設から5年が経過して、違和感なく地域の一人として認められるに至っている。近隣の住民とホームの利用者とは顔見知りの関係ができており、一人散歩の利用者が道に迷った場合には、近所の住民から連絡が入ったりもする。地域との関係構築に関しては、地域とホームをつなぐ民生委員の方や、認知症に理解の深い提携医の先生の貢献度も大きい。</p>                                 |

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|-------------------|----|--|---|-----|--|
| <b>. 理念に基づく運営</b> |    |  |   |     |  |
| 1. 理念と共有          |    |  |   |     |  |
| 1                 | 1  | 地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | グループホームが「地域密着型サービス」として位置付けられる前より、地域との共生、互助の精神が「スマイルおおくて基本理念」の中に明文化されている。  |     |  |
| 2                 | 2  | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 職員のチームワークが良く、先輩職員から良いものを学び取ろうとする後輩職員の意識も強いことから、管理者の思いは職員に十分伝わっている。また、日々のケアや取り組みの一つひとつにも、理念に根ざしていること意識がうかがえる。          |     | 今回の自己評価の【特に力を入れている点・アピールしたい点】にも、管理者の思いが強く感じられる。利用者、家族、職員、そして地域の幸せを願うホームであり続けていただきたい。                   |
| 3                 | 5  | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 5年間の活動を通して、地域の一員としての位置を確かなものとしている。特に地域内で薬局を営まれる民生委員の方の存在が大きく、地域の住民に対して「グループホーム」や「認知症」を正しく理解してもらうための橋渡しの役割を担っていただいている。 |     |  |
| 4                 | 7  | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | ミーティング時に、管理者から職員へ自己評価に対する説明を実施している。一定期間、「自己評価表」をホーム内に公開し、職員が自分の思いや意見を自由に記述できるよう配慮することで、その中から新たな改善の気づきを見出そうとの思いがうかがえる。 |     | 職員が全員参画しての「自己評価」であり、この制度を利用してサービスの質の向上につなげようとの管理者の思いがよく理解できる。職員の意見に対しては、ミーティング等で管理者の適切なフィードバックも必要であろう。 |
| 5                 | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 昨年度、秋まで順調に開催されていた運営推進会議が冬以降休止状態となっている。休止の理由は、中心的なメンバーの体調不良によるものであるが、復調され、約1年ぶりとなる今年の1回目が計画されている。                      |     | 昨年の外部評価後には実施できなかった「評価結果の検討」を、次回の運営推進会議ではぜひ実施していただきたい。外部評価の内容について多方面から意見の収集をし、取り組むべき課題についての活発な討議を期待したい。 |

| 外部              | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|-----------------|----|---|---|-----|---|
| 6               | 9  | 市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 管理者は運営推進会議以外でも、相談や情報収集を兼ねて市役所を訪問するよう努めている。担当者から得られた情報は、回覧等で職員にも周知されている。   |     |   |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |   |   |     |   |
| 7               | 14 | 家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | 家族の訪問時に、様々な情報伝達が行われている。イベント等の非日常を伝えるだけでなく、生活記録やアルバム(イベント時の写真や日々の暮らしぶりの写真)を提示しての説明も行われている。                             |     |   |
| 8               | 15 | 運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 家族の訪問頻度が高く、意見交換は頻繁に行われている。意思疎通の不足から、利用者の一時帰宅(日帰り)の際の服装で問題が発生したこともあったが、素早い対応とその後の改善により再発は防止されている。                      |     |   |
| 9               | 18 | 職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動が、利用者にながらダメージを与えることが理解されており、法人都合による職場の配置転換は極力見合わせられている。退職者や人事の異動については家族にも説明されている。                                |     |   |
| 5. 人材の育成と支援     |    |   |   |     |   |
| 10              | 19 | 職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 管理者は、職員一人に対し年間最低1回の外部研修への参加機会を与えようとしており、ホーム内での勉強会と併せ、職員の介護力量のアップをねらっている。資格の取得に対しても支援体制がとられており、職員は具体的な目標を持ってチャレンジしている。 |     |   |
| 11              | 20 | 同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 管理者は、県グループホーム連絡協議会の会合に参加し、また、その地域意見交換会にも参加して同業者との交流を図っている。  |     | 管理者が考えるとおり、様々な機会をとらえて一般職員を参加させることで職員の視野が広がり、結果としてホームの質の向上につながる可能性は大である。積極的な施策を大いに評価したい。 |

| 外部                        | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>  |    |  |   |     |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 |    |  |   |     |                                  |
| 12                        | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>新規の利用者が、早くホームに馴染めるように様々な取り組みが行われている。利用前に、極力利用希望者本人も家族とともにホームを訪問してもらうようしており、体験入居も行える状態にしてある。</p>                |     |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 |    |  |   |     |                                  |
| 13                        | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>                       | <p>「基本理念」にも、ホーム内の人々がお互いを大切にしながら支え合っていくことが明記されている。管理者は、「この仕事を通じて、職員が学び取るものは多い」と謙虚に話された。</p>                        |     |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握               |    |  |   |     |                                  |
| 14                        | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>   | <p>認知症のレベルの差もあるが、日々の会話、表情、行動から利用者の思いや意向の把握が可能な利用者が多い。意思疎通の困難な人の場合には、家族、関係者から情報を得て、利用者本人の意向を推考して対処している。</p>        |     |                                  |
| 15                        | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>        | <p>介護計画は、職員全員参加のカンファレンスを開いて作成されている。利用者本人や家族の意見、要望だけでなく、かかりつけの主治医や看護師、訪問マッサージ師の意見も参考にした介護計画となっている。</p>             |     |                                  |
| 16                        | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>    | <p>定期的な介護計画の見直しは4ヵ月間の経過観察の後に行われることになっているが、利用者の状態の変化に対しては、その都度適切な介護計画に変更されていた。その際にも、必要に応じて家族や主治医等の意見が聞き取られている。</p> |     |                                  |

| 外部                                     | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|--|----|--|--|-----|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) |    |  |  |     |   |
| 17                                     | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 医療面での充実度が高く、主治医の定期往診や看護師の健康管理が行き届いている。家族からの要請があれば、可能な限り病院への通院付き添いも実施している。また、近隣に住むお年寄りが、散歩の途中で足を休めに立ち寄られることもある。   |     |   |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働            |    |  |  |     |   |
| 18                                     | 43 | かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 利用者のほとんどがホームの提携医をかかりつけ医としており、月1回の定期往診を受けている。この提携医は認知症に関しても理解が深く、医療連携制度によって365日、24時間の対応が可能となっている。                 |     |   |
| 19                                     | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 管理者や職員は、ターミナルケアはホームとしても避けては通れない問題であることや、その重さを十分に理解しており、慎重な取り組みが行われている。実施直前まで進んだケースがあったが、医療行為(胃瘻)の必要性から退居、入院となった。 |     | 利用者本人の状態と、家族、医師、ホーム(職員)の方針や意見が合意をみて、これらの条件が整った場合には実施に移されるものと思われるが、これらの手続きのルール化(マニュアル)も必要となろう。 |
| 1. その人らしい暮らしの支援<br>(1)一人ひとりの尊重         |    |  |  |     |   |
| 20                                     | 50 | プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 利用者と職員の間には支え合いの関係ができており、プライバシーを損ねるような言葉かけや態度は見られない。利用者へ届いた手紙の開封も、利用者の見ているところで行っている。                              |     |   |
| 21                                     | 52 | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 食事の時間は大体決まっているものの、その他の家事、日課等はその時の雰囲気や決まることが多い。意思を表出できる利用者も多く、職員との会話の中からその日の行動や活動が決まっていく。                         |     |   |

| 外部              | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-----------------|----|--|---|-----|---|
| 22              | 54 | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 利用者は、各自の能力に応じて食事作りや片付けに参加している。週2回の食材宅配のない日には、職員と利用者が連れ立って買い物に行っており、利用者の楽しみとなっている。年2回のバス旅行での外食の他、地域の飲食店で外食を増やす計画もある。 |     |   |
| 23              | 57 | 入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 季節に応じて入浴日のパターンを変えてあり、夏季期間は毎日入浴機会が設定されている。入浴時間は午後だけの設定であるが、時間帯を広くとっているため、利用者の希望にもほぼ応えられる状態である。                       |     |   |
| 24              | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者の生活歴や趣味を、ホームの日常的な生活の中で活かすための支援が行われている。裁縫が得意な利用者たちは雑巾作りを担っている。食器洗いやふきあげは女性利用者たちにとってはお手の物である。書道や絵画が趣味の利用者もいる。      |     | 今後、加齢や認知症レベルの低下により、動くことや働くことを拒む利用者が増えてくることが予測される。その歯止めとなるのが「役割」や「習慣」、「責任感」であろう。これからも、個人の力量に合わせた「役割」を与え続ける支援を望みたい。 |
| 25              | 61 | 日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | ホームはのどかな田園に囲まれた閑静な住宅地に立地している。すぐ近くに神社があり、格好の散歩コースとなっている。家族の了解のうえで、単独散歩をする利用者もいる。                                     |     | 前項同様、外出を好まない利用者が増加すると思われるが、今から、四季の風を感じ、緑を目にし、土を踏みしめ、太陽の光を浴びることの喜びや幸福を感じさせておいていただきたい。                              |
| (4) 安心と安全を支える支援 |    |  |   |     |   |
| 26              | 66 | 鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 日中は鍵を掛けず、自由な暮らしを支援している。無断外出に対しても、玄関のセンサー・チャイムが鳴ると、利用者をすぐには引き戻さず、職員が必ず後を付けていく対応がとられている。                              |     |   |
| 27              | 71 | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 夜間を想定した避難訓練の実施はまだないが、消防署の協力もあって、年2回の防災訓練(避難訓練)が実施されている。災害時の必要備品類も準備されている。   |     | 夜間の災害発生時には、近隣住民の協力が不可欠な要素となる。休日を利用するなどして、地域住民参加の「夜間想定避難訓練」の実施を望みたい。   |

| 外部                        | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |  |   |     |                                   |
| 28                        | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 職員は、高齢者の健康維持に、適切な栄養価の補給と水分の摂取が重要であることを理解している。食事や水分の摂取量を毎日欠かさず記録し、利用者個々の状態が維持されるよう支援している。      |     |                                   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり   |    |  |   |     |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり            |    |  |   |     |                                   |
| 29                        | 81 | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ダイニングルーム兼リビングルームは広々としており、畳のコーナーもある。ある利用者の居場所の確保のため、リビングルームの一角が書架で区切ってあり、工夫の跡がうかがえた。           |     |                                   |
| 30                        | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                    | 居室は全室畳仕様(和室)となっている。畳を嫌う利用者は、畳を取り除いて、フローリングの床で生活することとなる。身体機能の維持を目的として、利用者が各自の居室の掃除をすることとなっている。 |     |                                   |